

第7回

「福岡市市民公益活動推進審議会」

会議次第

日時：平成20年 6月23日(月) 午後2時～午後4時

場所：福岡市NPO・ボランティア交流センター

1 開会

2 新委員の紹介

3 福岡市NPO・ボランティア交流センターの紹介

4 審議等

(1) 市民公益活動活性化に向けた施策について (資料1)

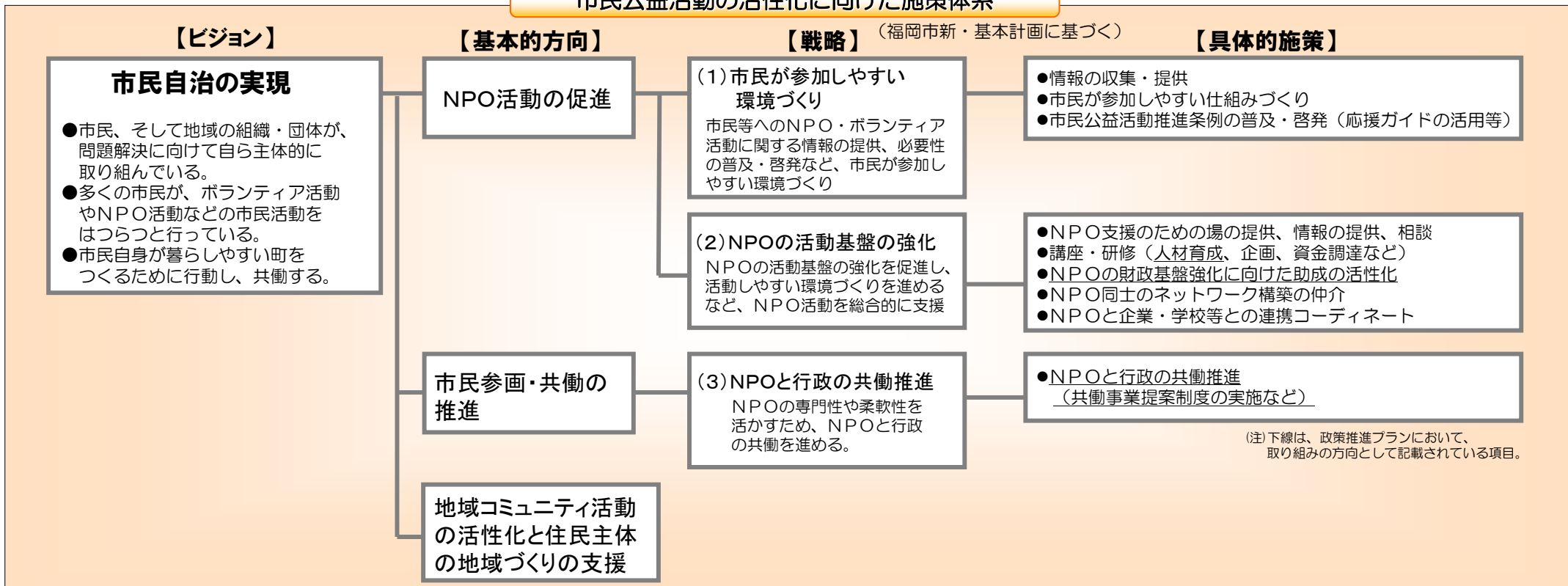
- ・ 施策体系について
- ・ 福岡市NPO・ボランティア交流センターの事業(案)について
- ・ 今後の課題(案)について

(2) その他

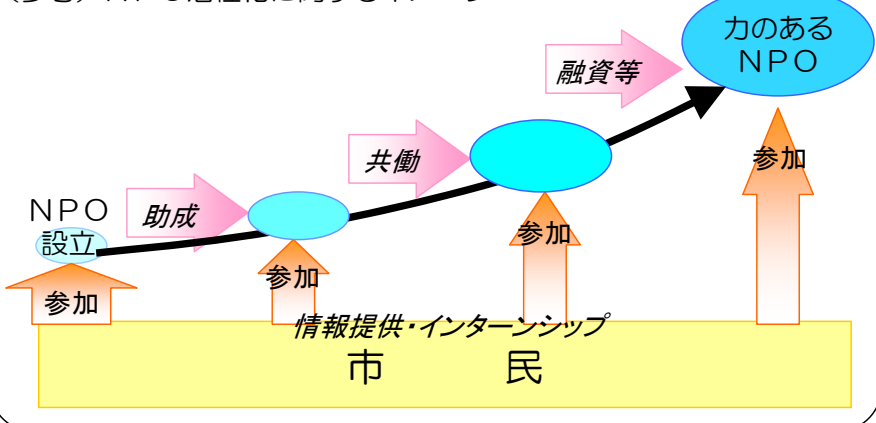
5 共働事業提案制度に関する報告 (資料2)

6 閉会

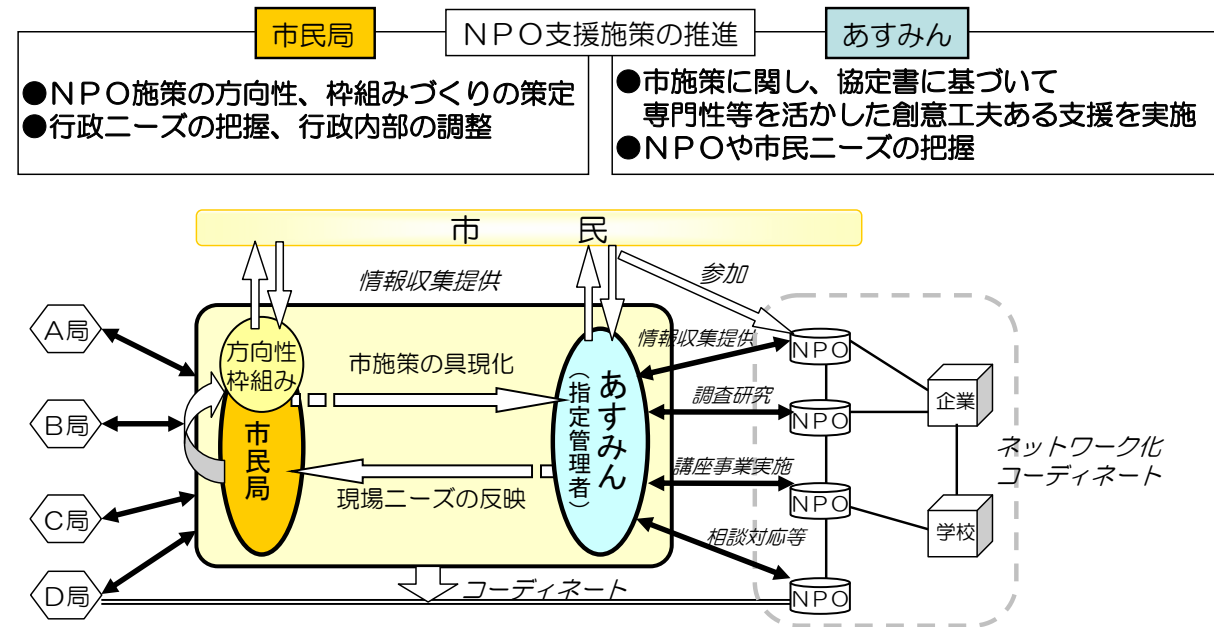
市民公益活動の活性化に向けた施策体系



(参考) NPO活性化に関するイメージ



《市民局と「あすみん」の関係》

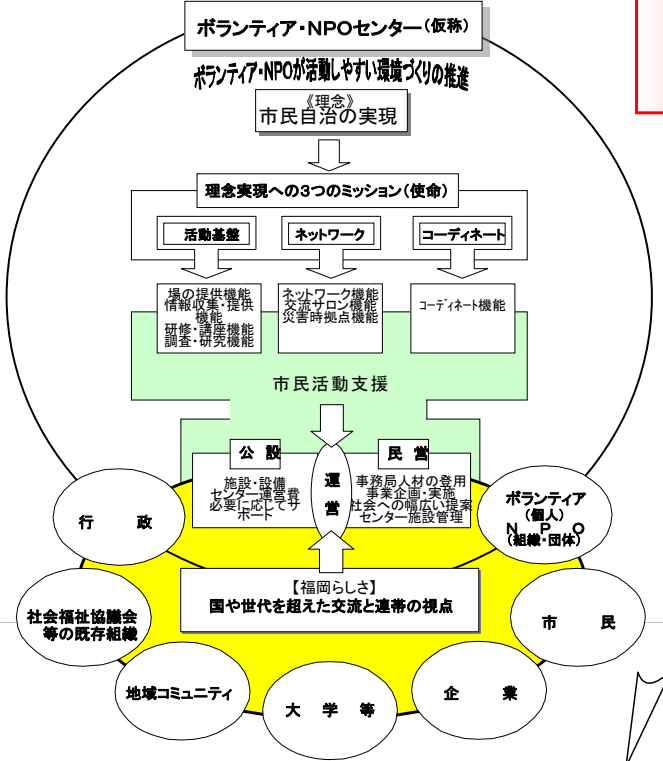


福岡市NPO・ボランティア交流センターの事業について(案)

センター基本計画(H14.2)

- センターを設置する目的
ボランティア・NPOが活動しやすい環境づくりの推進
- センターの理念
市民主体のまちづくり、市民自治の実現
- センターのミッション(使命)
 - ・ボランティア・NPOの活動基盤の強化
(ボランティア・NPOの持ち味を活かし、パワーアップを目指す)
 - ・ボランティア・NPOのネットワークの中心
(NPOなどの弱点を補完し合いながら、横のネットワークの中心となる)
 - ・各セクター間のコーディネート
- センターの機能及び事業について
 - [活動基盤の強化] 場の提供、情報収集及び提供、研修・講座等の育成、調査・研究
 - [ネットワーク] ネットワーク、交流サロン、災害時拠点
 - [コーディネート] コーディネート機能
- 福岡らしさ
 - ・国や世代を超えた交流と連携の視点
(アジア、大学、年配者、居酒屋や屋台のように)

【ボランティア・NPOセンター(仮称)のイメージ】



センター事業について(現状)

■福岡市NPO・ボランティア交流センター条例 (H14.9)

- 第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。
- (1) 市民公益活動に関する情報の収集及び提供
 - (2) 市民公益活動に関する調査及び研究
 - (3) 市民公益活動に関する研修及び講座の実施
 - (4) 市民公益活動に関する相談
 - (5) 市民公益活動の促進のためのセンターの施設の提供
 - (6) 前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的の達成に必要なこと。

H14.10～センター開設

H18.4～指定管理者制度の導入

基本協定・実施協定の締結

■平成20年度あすみん事業

- (1) 情報収集・提供
ホームページ、メールマガジン、情報誌など
- (2) 調査・研究
地域とNPO
- (3) 講座・研修の企画実施事業
ボランティア入門セミナー、NPO法人入門セミナー
企画書・プレゼンセミナー、資金調達セミナー
ファシリテーター入門講座、シニア向け大相談会
- (4) 相談事業
- (5) 場・機材の提供
セミナールーム、打ち合わせコーナー、印刷機、
連絡ボックス設置など
- (6) 交流連携事業
分野別交流会、企業の社会貢献セミナーなど
- (7) 災害時におけるボランティア活動支援
災害ボランティア養成講座など

※コミュニティビジネス相談事業(経済振興局)

次期指定管理におけるあすみん事業の方向性

- ☺ 18年度指定管理は高評価
(19年度については現在評価中)
- ☺ CS調査においても全般的に利用者の評価は高い



今後の市の施策の方向性としては、

- ➔ 市民参加を促す仕組みや効果的な情報提供が必要
- ➔ NPOと行政の共働のさらなる推進が必要
(H20～ 共働事業提案制度の実施)
- ➔ NPOの弱点を補完するとともに相乗効果を発揮するためには、ネットワーク機能やコーディネート機能の強化が必要



「あすみん」次期指定管理においては、センター基本計画の方向性は堅持しつつ、以下の事項について重点的に取り組む。

- ◆ 市民が参加しやすい環境づくり
- ◆ NPOと行政の共働の推進
- ◆ NPO同士のネットワーク構築
- ◆ NPOと他セクター間のコーディネート

具体的には…

【次期指定管理におけるあすみん事業(案)】
(下線部は重点的に取り組む事業)

- (1) 情報収集・提供
※市民の参加を促す仕組み、情報提供
- (2) 調査・研究
- (3) 講座・研修の企画実施事業
- (4) 相談事業
- (5) 場・機材の提供
- (6) 交流連携事業
※NPOと行政の推進に資する事業
(共働事業提案制度との連携)
※NPO同士のネットワーク構築
※各セクター間のコーディネート
- (7) 災害時におけるボランティア活動支援

今後の検討課題

(1) ハード・ソフト両面での「あすみん」機能のあり方の見直し・検討

- ▶ 「あすみん」開設後6年近くが経過、NPO法人数の増加やNPOを巡る社会環境が変化
- ▶ 施設（青年センター）の老朽化に伴い、今後整備が必要

時代にあったハード・ソフト面の機能のあり方について、審議会等において今後検討を行い、必要に応じてセンター基本計画の練り直しを行う。

※検討項目案

- ・ 施設整備に当たってのハード機能のあり方
- ・ 「あすみん」におけるNPO支援（ソフト面）のあり方
- ・ 行政とNPOの共働における「あすみん」の役割（各局とNPOとのコーディネート）
- ・ 利用料金制導入の是非
- ・ NPO認証等に関する権限移譲後の市の体制のあり方 など

来年度より
審議会で検討

(2) 共働のさらなる推進（市民公益活動推進条例の改正）

- ▶ 様々なセクター間での共働がますます重要に
- ▶ 共働事業提案制度の実施を契機とした、NPOと行政の共働推進（H20～）

共働事業提案制度の検証（H23）を踏まえ、共働の原則や共働の拡大への努力義務、共働事業提案などを市民公益活動推進条例に新たに規定することも視野に。

(3) 地域組織とNPOとの連携推進

- ▶ 複雑・多様化する地域課題に対しては、地域組織とNPOが連携して取り組むことが有効
- ▶ 両者の相互理解・連携に向けては、まだ課題が多い

地域組織とNPOの相互理解・連携をどう進めていくか、今後、研究する必要がある。

※検討項目案

- ・ 区レベルでの市民公益活動推進のあり方（交流拠点のあり方、区役所や公民館の役割、地域組織とNPOのコーディネートのあり方など）

今後の検討スケジュール(予定)

	(1)あすみん機能のあり方見直し	(2)共働のさらなる推進	(3)地域とNPOとの連携推進
20年度	第8回審議会 (20年度末開催予定)	★課題の整理 ★見直しの方向性、進め方等について議論	
21年度以降	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">審議会等において、あり方検討</div> <div style="text-align: center;">↓</div> 新・センター基本計画策定 <div style="text-align: center;">↓</div> NPO認証等の権限移譲(H23頃?) センター条例改正 新生「あすみん」スタート	(共働事業提案制度の実施) <div style="text-align: center;">↓</div> 提案制度の検証(H23) <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">審議会において、市民公益活動推進条例の改正の必要性について検討</div> <div style="text-align: center;">↓</div> 条例改正	<div style="text-align: center;">↓</div> 区レベルでの市民公益活動推進のあり方について研究

NPOと市が、ともにはたらくプロジェクト

「福岡市共働事業提案制度」説明会報告

キックオフ説明会について

参加者93名（NPO66、企業・大学生3、他都市行政2、市職員22）

開催日時：平成20年5月10日（土）13：30～16：30（開場13：00）

会場：市庁舎1階ロビー

プログラム（司会 市民公益活動推進課長）

1. 開会挨拶 市民局コミュニティ推進部長
2. 講演「NPOと行政の連携の可能性と課題」
講師 日本NPOセンター事務局長 田尻佳史氏
※一般には「協働」、福岡市は「共働」を用いている
- 休憩（10分） ※質問をポストイットに記入、回収
3. 田尻氏への質疑応答 ～会場とのやりとりで進行～
※共働促進アドバイザーの加留部氏と十時氏を紹介、
この後は、アドバイザーが進行
4. 制度概要の説明（「応募の手引き」により説明）
5. 13の課題例について担当者のコメントタイム
※NPOに期待すること、一緒に取り組むメリットなど
6. 名刺交換タイム



田尻氏の講演



加留部氏と十時氏の
会場とのやりとり



制度の説明



各担当者から
NPOへのメッセージ

キックオフ説明会・アンケート結果（45名回答）

1. 説明会について

●講演「NPOと行政の連携の可能性と課題」はいかがでしたか？

大変よかった 15 よかった 26 ふつう 3 あまりよくなかった 1

わるかった 0

その他

- ・ポイントを絞ったお話でした。制度についてももう少しお話いただく時間があればという感が残りました。
- ・受益者を考えた協働をつねに考えること！に共感しました。

●制度の説明はいかがでしたか？

大変よかった 6 よかった 28 ふつう 10 あまりよくなかった 1 わるかった 0

その他 0

- ・質問者の声がききとりづらかったです。（マイクがなく・・・）

●全体的にはいかがでしたか？

大変よかった 11 よかった 30 ふつう 4 あまりよくなかった 0 わるかった 0

その他 0

- ・基調講演、制度説明、アドバイザーの方々、皆さん熱意があり、しかも、わかりやすく聞く事ができ、理解できました。
- ・協働のあり方、進め方自体の学びについての時間も相応に確保されていてよかったと思います。

2. 提案してみたいと思われましたか？

ぜひ応募したい 18 検討してみる 16 今回は応募しない 5 わからない 1

その他 2 回答なし 3

- ・市民の事をここまで考えて取り組んでいる福岡市と志高い団体への協力団体として参画したいと考えております。

3. 4つのテーマ別説明会にも参加されますか？

参加する予定 23 できれば参加したい 15 わからない 3 参加の予定はない 2

回答なし 2

4. ご意見やご感想を自由にご記入下さい

- アドバイザーの方を置いたのは良かったでは。かみくだいた説明で良くわかりました。
- 4つのテーマの範囲がわかりにくい。
- 短い時間に濃い内容を入れてくださって、さすが行政の有能パワーを感じました。このようなパワーをぜひNP0と一緒に使わせていただければ、いい成果が出そうだと思います。企業の方の参加がありましたが、何か広いネットワークが出来そうです。ぜひ企業の方も参加していただけるようお計らいください。
- 仕事柄、他自治体（及びNP0）の活動の現場を見る機会が多いのですが、他と比べ今回の説明会に参加して「福岡市はとても親切であり、しかも、暖かみのある心のこもった制度だな」と嬉しいサプライズでした。この取り組みを聞き、遠方から聞きに来ましたが、白熱した議論も好ましいものでした。
- 大変有意義な時間だったと思います。テレビや新聞などのメディアで、特集取材されると良いですね。「共働」は一般市民・企業への理解がもっと進むべきだと思います。
- わかりやすく、これから活動していく目標がはっきりしてきました。行政が何を求めているのか、それにどう答えていけばよいのかも明確になったのでメンバーとよく検討し、今後の活動にも生かしていきたいと思います。参加して良かったです。
- 貯金のできないNP0で毎年資金は使い切りです。自己資金というのはない。収入を上げると「お金は返す」ということ？やりたいことはありますが、ない袖はふれなないとお金の事で悩みつつ帰っております。
- 確かに民間がまず頼るのでなく、しっかりした体制をもつことが大切だと共感しました。これから、行政といかに関わっていけば良いのかを考えていこうと思います
- 良い仕組みだと思います。各事業の担当課ごとに「共働のあり方」や行政とNP0の関係性が違って来るだろうなあと感じています。審査～評価の過程でお互いに学ぶことが多そうです。
- 共に福岡市・行政と一緒にテーマについて働きたいと考えています。本当に有意義のある制度の説明が大変よかったですと思っています。
- 福岡市で活動を始めて、まだ浅いのですが、福岡市が市民に近くなった気がします。
- 大変良い制度がスタートしたと思います。継続性があり、良い結果が出るといいですね。今回は私共とマッチングできる場面は無いのかもと思いますが、又、次年度以降に期待致します。
- 役所の方が売り込み（13テーマの説明）をしているのを始めて見ました。公務員はかくありたいものです。市役所全体が、このような動きになれば市もまんざらではないと感じました。
- 田尻先生の話とアドバイザーお二人のおかげで、行政の人間として「共働」に対する心構えと頭の整理ができました。

テーマ別説明会について

4つのテーマに対して課題を提示した担当者から説明し、共働促進アドバイザーが進行して参加者からテーマや制度について質問に対応した。

No1 こども・教育テーマ（アドバイザー：加留部 貴行氏）

参加者44名（NPO32、市職員12）

平成20年5月12日（月）19：00～21：00

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

- ① 中高校生の居場所づくり（こども未来局こども未来課）
- ② 小学生への遊びの提供（こども未来局こども育成課）
- ③ 科学の楽しさを伝える（こども未来局こども施設課）
- ④ 子どもとメディアの良い環境づくり（教育委員会生涯学習課）
- ⑤ 歴史・伝統文化の学習（教育委員会文化財管理課）



No2 健康福祉・ライフスタイルテーマ（アドバイザー：加留部 貴行氏）

参加者31名（NPO24、市職員7）

平成20年5月13日（火）19：00～21：00

博多区保健福祉センター2F 集団指導室

- ① 企業のワーク・ライフ・バランスの推進（市民局男女共同参画課）
- ② ひきこもり青年の社会参加支援（保健福祉局精神保険福祉センター）
- ③ メタボリックシンドローム予防の推進（保健福祉局保険年金課）



No3 環境共生のまちづくりテーマ（アドバイザー：十時 裕氏）

参加者15人（NPO11、市職員4）

平成20年5月14日（水）19：00～21：00

早良市民センター3F 第2会議室

- ① かなたけの里公園を拠点としたまちづくり（住宅都市局公園計画課）
- ② 博多湾の環境改善運動（港湾局環境対策課）
- ③ 志賀島の自然や歴史的魅力資源の活用（東区企画課）



No4 シティプロモーションテーマ（アドバイザー：十時 裕氏）

参加者14人（NPO12、市職員2）

平成20年5月15日（木）19：00～21：00

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

- ① 外国からの視察者コーディネート（保健福祉局計画課）
- ② 外国人観光客に対する観光サービスの提供（経済振興局集客企画課）



□の字に席を変えて
質疑応答

「福岡市は住みやすい」

意識調査 好意的回答9割以上

調査は昨年8月、市内の20歳以上の男女4500人を無作為に選び、2373人から回答を得た(回収率52.7%)。「住みやすい」は60.8%(前年度50.3%)▽「どちらかといえば住みやすい」は33.2%(同40%)だった。定住意向を尋

過去5年間で最高

「福岡市は住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と感じている市民が84%に上ることが市の意識調査で分かった。「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」という意向がより鮮明に出た。

【早田利信】調査は昨年8月、市内の20歳以上の男女4500人を無作為に選び、2373人から回答を得た(回収率52.7%)。「住みやすい」は60.8%(前年度50.3%)▽「どちらかといえば住みやすい」は33.2%(同40%)だった。定住意向を尋

NPOの発想で募いしよ

福岡市「共働事業」の提案募集 子ども・教育など4分野

福岡市は、NPO(非営利組織)から新しい発想や視点を生かした提案を受け、共に事業を進めていくこと「共働事業提案制度」を始める。

単にNPOに事業を託すのではなく、パートナーとして共に事業に取り組み、きめ細かい市民サービスや都市活力を作るのが狙い。市は11月6日30日、問い合わせは市民局市民公益活動推進課092・711・4283。

子ども・教育…4テーマ

福岡市は本年度、市内のNPO(民間非営利団体)と一緒に事業を進める「共働事業提案制度」をスタートする。さまざまな分野で活動するNPOの四テーマでNPOから

5/8

西日本新聞朝刊

10日説明会26日から受け付け

福岡市は本年度、市内のNPO(民間非営利団体)と一緒に事業を進める「共働事業提案制度」をスタートする。さまざまな分野で活動するNPOの四テーマでNPOから

事業提案を募る。市が提案を受け、学識経験者やNPO関係者らで構成する委員会が審査と選考を行う。応募NPOがそれぞれの企画を説明する公開プレゼンテーションの場も設ける。

採択された事業は来年度の1年間、市とNPOが共同で実施。市は各事業で四百万円を限度に、NPOの経費を負担。応募資格は福岡市内に事務所を置き、同市内での活動実績を持つNPO(法人格は問わない)。

テーマは、子ども・教育▽健康福祉・ライフスタイル▽環境共生のまちづくり▽シティプロモーション。十日に市役所で説明会があり、二十五日にテーマごとの説明会が市民センターなどで開かれる。

事業提案の募集は、二十六日から六月三十日まで。問い合わせは、福岡市民公益活動推進課092(711)4283。

【早田利信】調査は昨年8月、市内の20歳以上の男女4500人を無作為に選び、2373人から回答を得た(回収率52.7%)。「住みやすい」は60.8%(前年度50.3%)▽「どちらかといえば住みやすい」は33.2%(同40%)だった。定住意向を尋

福岡市「共働事業」の提案募集 子ども・教育など4分野

福岡市は、NPO(非営利組織)から新しい発想や視点を生かした提案を受け、共に事業を進めていくこと「共働事業提案制度」を始める。

**NPOと市が
ともにはたらくプロジェクト**

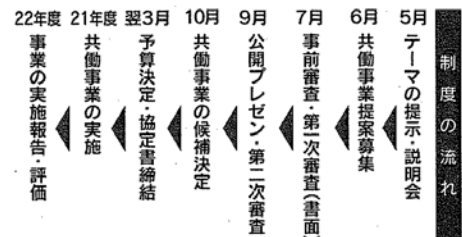
**「共働事業提案制度」の
事業公募が始まりました**

NPOの新しい発想や視点を市の施策に生かし、NPOと市が共働で事業に取り組む「共働事業提案制度」が本年度からスタートしました。そこで、NPOの皆さんから事業提案を募集します。

○応募資格
市内に事務所を置き活動実績を有するNPO(法人格は問いません)。個人は対象外です。

○募集事業
公益活動を行うNPOと市が同じ課題に別々に取り組むより、一緒に取り組むことで市民サービスの向上が見込める事業を求めます。
20年度は市が提示する次のテーマについて事業を提案してください。

■子ども・教育
■健康福祉・ライフスタイル



■説明会の日程など ※いずれも5月。14日のみ要予約。

日時	内容	会場
10日(土) 13時半	キックオフ説明会 (全テーマについて説明)	市庁舎1階ロビー
12日(月) 19時	子ども・教育	あすみん
13日(火) 19時	健康福祉・ ライフスタイル	博多区保健福祉センター2階
14日(水) 19時	環境共生のまちづくり	早良市民センター3階
15日(木) 19時	シティプロモーション	あすみん

○募集する事業の実施期間
平成21年度(単年度)

○市の経費負担
総事業費の5分の4以内で、400万円を限度として市が事業経費を負担します。5分の1は、提案団体の負担となります。

○応募の手引き
市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」(中央区大名2 市青年センター15階)724・4801と各区市民相談室、市民公益活動推進課(市役所7階)で5月1日休日から配布。また、市ホームページ(www.fukuoka.city.lg.jp)「生活情報」ポータル

【問合せ先】
市民公益活動推進課 ☎711・4203(733)・5005 メール keeki CAB@city.fukuoka.lg.jp



■環境共生のまちづくり
■シティプロモーション
具体的な課題例については、応募の手引きをご覧ください。

○募集期間・応募方法
5月26日(月)～6月30日(月)の間に、市民公益活動推進課へ必要書類(応募の手引きに記載)を持参。

○説明会の開催
制度の内容や提案募集について説明会(左表参照)を開催しますので、ぜひご参加ください。

6/10 官庁速報

◎NPOなどとの「共働事業提案制度」創設＝福岡市

福岡市は、特定非営利活動法人(NPO法人)やボランティア団体の事業提案を採用し、提案団体と市が共催する形で事業を実施する「福岡市共働事業提案制度」を創設した。事業実施の際は実行委員会形式などを採り、事業費は市と団体がそれぞれ負担金として出し合う。従来の各団体への委託や助成とは異なり、市とNPO法人などの両者が対等なパートナーとして事業に取り組むことで、市の活性化を図るとともに、行政にはない発想や視点を生かしてきめ細かい市民サービスの実現を目指す。

初年度の2008年度は、(1)居場所づくりや、遊び、科学、歴史の学習など「子ども・教育」(2)引きこもり支援や企業のワーク・ライフ・バランス推進など「健康福祉・ライフスタイル」(3)新公園を拠点としたまちづくりや博多湾環境改善運動など「環境共生のまちづくり」(4)海外からの視察者や観光客へのサービス提供など「シティプロモーション」—の4テーマで事業提案の公募を開始した。公開プレゼンテーションや学識経験者らの審査委員会審査を経て秋ごろまでに選考。09年度の予算編成に組み込み、09年度新規事業として実施する。事前の説明会には60を超える団体が訪れるなど関心が高く、市は最低でも6件程度は実現したい考え。1事業当たり、市負担は上限400万円で負担率は5分の4以内。テーマ設定を工夫しながら3年間実施し、11年度に検証作業を行い恒久的な制度にするかどうか決める予定。(了)

平成20年度「共働事業提案制度」に関する今後の予定

- 応募の〆切 6月30日（月）
 - 資格要件審査 7月初旬～中旬
 - 第1次審査（書面審査） 7月下旬
 - 公開プレゼンテーション 9月中旬
 - 第2次審査（最終審査） 9月中旬
 - 共働事業候補決定（市長に報告） 10月中旬
 - 共働事業の実施決定 21年3月下旬
- 21年度のテーマ決定に向けて「NPOと行政職員の意見交換会（仮称）」を12月～1月の間で開催する予定。

<参考>

◎福岡市共働事業提案制度審査委員会委員（敬称略、五十音順）

小山田 浩定	企業関係者
清原 英明	行政
古賀 桃子	NPO・ボランティア関係者
白川 詔子	行政
福山 誠	地域関係者
森田 昌嗣	学識経験者
山形 紀子	報道関係者

◎福岡市共働事業提案制度共働促進アドバイザー（敬称略、五十音順）

加留部 貴行	NPO・ボランティア関係者
十時 裕	地域活動アドバイザー